

薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2011年8月）

【医薬品一般】

Q：アルツハイマー型認知症の母親に統合失調症の薬が投与されているが、なぜか？（一般）

A：アルツハイマー型認知症の症状は、認知機能障害の「中核症状」と、中核症状に伴って現れる「周辺症状」がある。「周辺症状」はBPSD（Behavioral and Psychological of Dementia：認知症における行動と心理学的症状）と呼ばれ、精神症状（幻覚、妄想、不安、うつ状態等）や行動的障害（せん妄、徘徊、不潔行為、攻撃性、性的逸脱、睡眠障害等）を呈する。BPSDの幻覚、妄想およびせん妄による異常行動に対して、統合失調症等に適応を有する抗精神病薬が用いられ、定型抗精神病薬に比べて、錐体外路症状等の副作用が少ない非定型抗精神病薬（リスペリドン、ペロスピロン、クエチアピン、オランザピン、アリピプラゾール、ブロナンセリン）が選択される（保険適応外使用）。

Q：あせもの治療法は？ベビーパウダーを使っても良いか？（一般）

A：あせも（汗疹）は高温多湿の環境下で、一気に多量の発汗があり、かつ汗が蒸発しにくく細かい汗管で汗の通過が相対的に滞り、あるいは閉塞して汗管内に汗が貯留し、皮膚表面に排泄されずに周囲組織に漏れ出るために起こる。汗の貯留部位によって下記のように症状が異なる。ベビーパウダーの使用は汗の出口（汗孔）を塞いだり、シワの奥にたまったりすることがあり勧められない。ただし、皮膚の水分が十分に取れて、皮膚が乾燥している状態に薄く塗布することで、予防効果は期待できる。

水晶様汗疹	表皮の角層内に汗が貯留。高温・多湿の環境下や高熱の後に体幹、四肢など全身に発現する径1～2mmの均一な水疱。炎症はなく、発赤や痒みを伴わない。水疱は数日で破れ治癒するので治療は不要。汗をこまめに拭き、シャワーで早く汗を流し、涼しい環境を整える。
紅色汗疹	表皮内に汗が貯留。額、頭、頸、腋窩、肘・膝の内側、胸背部等に発現する直径2～3mmの紅くブツブツとした小丘疹。周囲が発赤し、軽い痒みやヒリヒリした痛みを伴う。皮疹部は黄色ブドウ球菌が繁殖しやすく、皮膚表面に感染すると伝染性膿痂疹（とびひ）、真皮内に感染すると熱感・疼痛・発熱等を伴う多発性汗腺膿瘍（あせものより）となる。治療は非ステロイド性抗炎症薬やステロイド外用薬のクリーム製剤を使用（軟膏製剤は汗管を閉塞するので避ける）。多発性汗腺膿瘍（あせものより）はセフェム系、ペネム系抗生物質の内服が必要で、局所療法は穿刺または切開して排膿し、抗菌外用薬を使用する。
深在性汗疹	真皮内に汗が貯留。やや青みがかった白色の扁平な小丘疹が多数集まり広範囲に及ぶ。痒みはほとんどなく紅色汗疹に続いて起こる場合が多い。汗管の閉塞により汗が流出できないため、熱中症を起こしやすい重症型で、熱帯地方に多く、日本ではまれである。

Q：手足口病による口内炎の治療方法はないか？（薬局）

A：手足口病は夏かぜの一種で、5～8月に流行する感染症である。主な原因ウイルスはエンテロウイルスのコクサッキーA16、コクサッキーA10、エンテロウイルス71で、飛沫、経口、接触により感染する。潜伏期間は3～7日で、発熱と咽頭痛が出現後、手と足と口に水疱ができ、水疱が痂皮を形成することはない。手足口病に特効薬はなく、通常は1週間すれば軽快するので、特別な治療は必要ない。口腔粘膜に軽い発疹や痛みの強い口内炎などができ、口内炎が悪化して食事ができない場合は、刺激の強い物や熱い物は避け、あまり嘔まずに飲み込める柔らかい薄味の食べ物を与え、脱水状態にならないように水分補給をすることが重要である。

Q：鶏卵へのサルモネラ菌の汚染経路は？（薬局）

A：鶏卵によるサルモネラ食中毒の原因菌はサルモネラ・エンテリティディス（*Salmonella Enteritidis*: SE）である。SEの殻付卵汚染は、SE保菌鶏から卵巣や卵管を経由して、産卵時には既に卵内に本菌が認められるもの（in-egg汚染）と、産卵時または産卵後に卵殻表面に糞便等と一緒に付着したSEが、卵殻を通過して卵内に侵入するもの（on-egg汚染）の2つの経路がある。

Q：医師よりパラアミノ安息香酸（PABA）エステルを含有する「遮光クリーム」の製法を聞かれたが？（薬局）

A：院内製剤で「遮光クリーム」の処方がある。

（処方）パラアミノ安息香酸 5g 親水軟膏 全量 100g

（製法）よく研和し、微粉末化したパラアミノ安息香酸に少量の親水軟膏を加えよく練合した後、残りの親水軟膏を少量ずつ加え、全質均等に製する。遮光・室温保存。PABAは角質層中に拡散して貯蔵され、紫外線を吸収して熱エネルギー等に変化させて放出し、紫外線の皮膚への浸透を防ぐ永続的効果を発揮する紫外線吸収剤である。接触皮膚炎などの過敏症の発現に注意する。化粧品（サンスクリーン等）では、PABAおよびそのエステルの使用は合計量として4%以下の制限がある。

【安全性情報】

Q：レニベース™錠2.5mgを服用中だが、ドクダミ茶を飲んでも良いか？（一般）

A：ドクダミ草にはカリウムが含まれる。レニベース™錠（エナラプリルマレイン酸塩）はACE阻害薬でカリウム排泄抑制作用を有し、併用により高カリウム血症およびカリウムによる血圧低下作用が増強される可能性がある。

Q：骨粗鬆症でエビスタ™錠60mgが処方された。乳がんの予防効果もあるのか？（一般）

A：エビスタ™錠60mg（ラロキシフェン塩酸塩）は、選択的エストロゲン受容体モジュレーター（SERM）で、組織選択的な女性ホルモン様作用を示す。骨に対しては、骨密度の増加、椎体骨折の発生抑制効果があり、子宮や乳腺に対する刺激作用はなく、乳がんでは発生率の低下が報告されている。米国およびオーストラリアでは、「乳がんハイリスク患者へのリスク低下」、「閉経後骨粗鬆症患者の乳がんリスク低下」の適応も有する。

Q : 1歳3ヶ月の子どもがテルロンTM錠0.5（テルグリド）を2～3錠なめて飲み込んでいるようだ。30分程経過しているが、処置は？（薬局）

A : 選択的ドパミン作動薬であり、悪心・嘔吐、便秘、眠気等の副作用症状が現れる可能性がある。過量投与時には催吐、胃洗浄、下剤投与等の通常の中毒処置を行う。発現した副作用症状に対しては、解毒剤（抗ドパミン作用薬）として軽症ではメトクロプラミドの点滴静注、重症ではスルピリド筋注を行う。

Q : オコゼに刺された時の対処法は？（薬局）

A : 背びれ等に毒棘を持つオコゼに刺されると、刺傷直後より激しい疼痛、しびれ、知覚麻痺、刺入部位に水疱を形成し、発熱や悪心・嘔吐、下痢等が起こる。重症例では関節痛、冷汗、発汗、悪寒、呼吸困難などが起こり、特にオニダルマオコゼの毒は強力で、心肺機能不全、血圧低下などのショックにより死亡することもある（死亡例は通常6時間以内に起こる）。傷は基本的処置として、棘を確認し、残っていたら除去する（通常、棘は太く硬いので皮膚内に残らない）。傷口を洗浄し、43℃前後のお湯に30～90分温浴する（毒は熱に不安定で、疼痛緩和が期待できる）。破傷風や感染症の予防を行い、痛みに対しては鎮痛薬を投与する。鎮痛薬無効例にオニダルマオコゼ抗毒素が有効とされているが、本邦では入手困難である（オーストラリアCSL社で製造）。

【その他】

Q : オーストラリアに抗生物質のセフゾンTMカプセルの持ち込みは可能か？（薬局）

A : 規制医薬品に該当しない医薬品は、個人使用に限定して入国時に入国旅客カードにて申告すれば、通常3ヶ月分の持ち込みは可能である。ただし規制医薬品には該当しないことがわかるように、医薬品の成分等の英語表記または医師の英文診断書を準備する。